

小学生における性役割の受容度

南 憲 治

本研究では、性役割に対する考え方が大きく異なると思われる2つの地域の小学生に質問紙調査を行い、児童の性役割の受容度に地域差がみられるか否かを検討しようとした。具体的には男尊女卑の傾向が根強く残っており、これと結びついて男女それぞれに望ましい行動様式が決まっている沖永良部島の1小学校と、男女を差別的に扱う伝統的な性役割観から男女の役割の違いを強調しない方向へ変わりつつあると考えられる兵庫県の2小学校を取り上げた。

沖永良部島は鹿児島市から約500km南にある、人口、約17,000人の離島である。調査を行ったO小学校の児童の大半は農家の子どもたちである。田畑において男は主に農機具を使い、力を要する作業に従事しているのに対して、女は補助的な仕事（草を取ったり、花を摘むなど）をするだけであり、男女の役割は明確に区別されている。家庭でも男女の仕事は異なり、母親が炊事をしている間、父親は牛などの家畜の世話をしている。そして、男子は父親、女子は母親の仕事を手伝いながら大きくなり、男女それぞれに期待される役割は小さい時からはっきりと異なっている。

これに対して兵庫県の2小学校は、大阪のベッド・タウンに当たる宝塚市のN小学校と、神戸市近郊に位置する三木市のM小学校で、ともに新興住宅地にあり両小学校ともサラリーマン家庭の児童が多い。また、共働き家庭の児童も多く、「男は仕事、女は家庭」といった伝統的な性役割観にも変化がみられ、男女の違いが強調されることは比較的少ないと考えられる。

ところで、従来の調査によると、小学校の中学年頃から性役割の受容度にお

いて男女差が現れ、女子の性役割の受容が困難になることが指摘されている。たとえば、高橋（1968）は、小学校の1年生から中学3年生までの子どもに、自分の性に生まれてよかったか否かを尋ねた。それによると、男子は一貫して自分の性に対する評価が高いのに、女子の場合は、自分の性に生まれてよかったと回答する者の割合が、小学校の4、5、6年から急速に減少している。そこで、本調査では、性役割の受容において男女差が生じてくるとされる小学校の4、5、6年生を調査対象に選び、前述の性役割の受容度における地域差と同時に、男女差もあわせて明らかにしようとした。

方 法

調査対象 対象児は沖永良部島のO小学校4、5、6年生、計57名（男32名、女25名）、三木市のM小学校5、6年生、計88名（男45名、女43名）、宝塚市のN小学校5年生97名（男48名、女49名）である。

調査方法 質問紙による調査を各小学校の担任に依頼し、教室で一斉に児童に回答させた。調査は1979年の9月から11月にかけて行われた。

調査内容 児童の性役割の受容の程度を調査するために、男子用と女子用の2種類の質問紙を作成した（具体的な質問項目は、男子用のものを本論文の最後に示しておく）。

結 果

本研究の第一の目的は、沖永良部島の児童と兵庫県の児童の性役割の受容度を比較することにある。そこで以下の結果においては、兵庫県のM小学校とN小学校の児童の回答は1つにまとめて集計し、沖永良部島の児童の回答と比較した。

まず、表1には、自分の属する性に生まれてよかったと回答した児童の割合

表1 自分の性に生まれてよかったと回答した児童の割合（％）

	男	女
沖 永 良 部 島	96.9	56.0
兵 庫 県	100.0	83.5

が男女別に示されている。この結果をもとに、地域差があるか否かをみるため、男女別に 2×2 の x^2 検定を行った。その結果、女子でのみ、この質問項目に対する反応の比率が両地域で異なることが明らかになった ($x^2=8.53$, $df=1$, $p<.01$)。すなわち、沖永良部島の女子は兵庫県の女子と比べて、自分の性に生まれてよかったと回答した者が少ないことになる。次に、この質問に対する回答の男女差を検討するため、地域別に x^2 検定を行った。それによると、両地域とも自分の性を受容する者は、女子よりも男子に有意に多いという結果が得られた（沖永良部島： $x^2=14.11$, $df=1$, $p<.001$ ；兵庫県： $x^2=16.69$, $df=1$, $p<.001$ ）。この質問に関連して、自分の性に生まれてよかった点と悪かった点を自由に記述させた。その結果を、男子については表2に、女子については表3に示した。この表2、表3に関しては、両地域の児童の回答に差がみられなかったので、両地域を区別せず一緒にして人数の多い順に回答を列挙した（以下の自由記述の部分の回答においても、両地域の児童の回答に差が認められなかったので、両地域の回答は区別していない）。なお、1人の回答において、よかった点あるいは悪かった点がいくつも書かれている場合は、1つ1つ数え上げたが、表2、表3の場合、このようなことは非常に少なかった。

表2 男に生まれてよかった点と悪かった点

よ っ た 点 (人数)	悪 っ た 点 (人数)
強い (24)	よくおこられる (10)
いろんなこと（遊び）ができる (11)	よくたたかれる (7)
おしっこがしやすい・立小便ができる (11)	きつくおこられる (4)
あばれられる (9)	あばれすぎる (4)
女にできないスポーツ（野球など）ができる (7)	きつくたたかれる (3)
スポーツが得意 (7)	料理ができない (3)
野球，サッカーなどはげしいスポーツができる (4)	おしゃれができない (3)
子どもをうまなくてよい (4)	子どもをうめない (2)
釣りができる (3)	女よりしんどいところがある (2)
女よりめんどくさくない (2)	男に対してきびしい (1)
冒険ができる (2)	何でもやらされる (1)
男は何でもできる (2)	男のせいにされる (1)
思うようにできる (2)	ほとんどの人が女にあまい (1)
上品にしなくてもよい (2)	かわいがられない (1)
いやらしいことをされない (2)	親を養わないといけない (1)
何でも自由に言える (2)	すぐ悪いことをする (1)
友達が多くつくれる (1)	けんかをよくする (1)
よい友達がいる (1)	畑仕事につれていかれる (1)
いたずらができる (1)	家事がへた (1)
乱暴ができる (1)	細かい手仕事がへた (1)
いばれる (1)	歌がへた (1)
虫が好きになれる (1)	字が上手にかけない (1)
お祭りで太鼓がたたける (1)	礼儀正しくない (1)
へんなことを言われない (1)	坊主にされる (1)
習いごとが少ない (1)	大きい人にいじめられる (1)
お父さんみたいになれる (1)	女にばかにされる (1)
男どうしということ，父がかわいがってくれる (1)	勉強ができない (1)
炊事，洗濯をしなくてよい (1)	走ると負ける (1)
	いつも女の子やと言われる (1)

表3 女に生まれてよかった点と悪かった点

よ っ た 点 (人数)	悪 っ た 点 (人数)
おしゃれができる・ズボンもスカートもはける (19)	おてんばができない・あばれられない (14)
料理ができる (8)	弱い (10)
大事にされる・かわいがられる (8)	掃除, 洗濯, お手伝いをさせられる (9)
友達が多い・友達と仲よくできる (6)	女らしくしなければいけない (7)
かわいいと言われる (5)	行儀正しくしないといけない (4)
お手伝いができる (5)	言葉づかいに気をつけないといけない (4)
やさしい (5)	男に逆らえない (4)
いろんな髪型ができる (3)	はきはきと言えない (2)
あまりおこられない (3)	体育がへた (2)
きびしくおこられない (3)	野球ができない (2)
子どもがうめる (3)	生理がある (2)
かわいい (2)	トイレがしにくい (2)
よくほめられる (1)	言いたいことが言えない (1)
男にもてる (1)	電車の運転手になれない (1)
けんかをあまりしない (1)	医者になりにくい (1)
いやなことは男子がしてくれる (1)	子どもをうまなければならない (1)
女の子の遊びがたくさんある (1)	体力がない (1)
自分で何でも作れる (1)	男の方が得 (1)
男子にできないことを学んだ (1)	遅くまで遊べない (1)
はげにならない (1)	着がえにくい (1)
	スカートの時, 運動ができない (1)
	男子にいやらしいことをされる (1)
	おしゃべり (1)
	いろんな面で恥かしい思いをする (1)
	口答えが多い (1)

表4は、生まれ変わるとした場合、どちらの性がいいかについて尋ねた結果を男女別に示したものである。この結果に基づいて男女別に地域差を検討したところ、女子においてのみ有意差が認められ、沖永良部島の女子は兵庫県的女子よりも、生まれ変わるとしたら男の方がいいと回答した者が多かった ($x^2=8.04$, $df=1$, $p<.01$)。次に、地域別に男女差を調べたところ、兵庫県の

表4 「生まれかわるとしたらどちらがいいか」に対する回答の割合 (%)

	男		女	
	男がいい	女がいい	男がいい	女がいい
沖 永 良 部 島	90.6	9.4	72.0	28.0
兵 庫 県	96.7	3.3	40.0	60.0

児童においてのみ男女差がみられ、男子は女子よりも生まれ変わるとしたら男の方がいいと回答した者が多かった ($x^2=67.43$, $df=1$, $p<.001$)。

表5には異性になりたいと思ったことがあると回答した児童の割合が男女別に示されている。この結果から男女別に地域差を検討したが、男女とも有意差

表5 異性になりたいと思ったことがある児童の割合 (%)

	男	女
沖 永 良 部 島	6.3	56.0
兵 庫 県	4.5	57.6

は認められなかった。しかし、地域別に男女差を調べたところ、両地域とも男子よりも女子に異性になりたいと思ったことのある者が多いという結果が得られた (沖永良部島: $x^2=17.20$, $df=1$, $p<.001$; 兵庫県: $x^2=59.15$, $df=1$, $p<.001$)。では、どのような時に異性になりたいと思っているのであろうか。これをまとめたのが表6である。

表6 異性になりたいと思ったとき

男	(人数)	女	(人数)
料理ができない・料理をやらせてもらえない	(4)	けんかをしたとき	(13)
女だったらあまりおこられないので、おこられたとき	(1)	あばれられないから	(8)
		家事を手伝うとき	(7)
		男子にいじめられたとき	(5)
		トイレをするとき	(4)
		野球ができないから	(3)
		女と男と差別されたとき	(3)
		子どもをうまないといけないから	(3)
		遅くまで遊べないから	(2)
		スポーツをするとき	(2)
		スカートめくりをされたとき	(1)
		祭りのとき、太鼓がたたけないから	(1)
		生理のとき	(1)
		男にいばられたとき	(1)
		女子が人の悪口をこそこそ言っているのをみたとき	(1)
		男と同じように働いても、お金が少ない	(1)
		木のぼりするとき	(1)
		男は何でもできるから	(1)
		男は強いから	(1)
		兄が女であるから相手になって遊んでくれないとき	(1)
		男だと遠くへ旅行にいけるから	(1)

次に男と女ではどちらが得かについて尋ねた結果が表7にまとめてある。これをもとに地域差を明らかにするために男女別で x^2 検定を行ったが、男女とも有意差は認められなかった。一方、地域別に x^2 検定によって男女差を調

べたところ、兵庫県においてのみ男女で反応の比率に差が認められた ($x^2=6.82$, $df=1$, $p<.01$)。すなわち、男子の方が女子よりも男の方が得であると回答した者が多いといえる。

表7 「男と女では、どちらが得ですか」に対する回答の割合 (%)

	男		女	
	男が得	女が得	男が得	女が得
沖 永 良 部 島	90.3	9.7	70.8	29.2
兵 庫 県	77.4	22.6	59.3	40.7

表8 「男（女）らしくしなさい」と言われたことがある児童の割合 (%)

	「男らしくしなさい」と言われたことがある男子	「女らしくしなさい」と言われたことがある女子
沖 永 良 部 島	43.8	48.0
兵 庫 県	37.0	71.7

表8には「男（女）らしくしなさい」と言われたことがある者の割合が男女別に示してある。この結果をもとに男女別に地域差を調べたところ、女子においてのみ有意差がみられ、兵庫県の女子は沖永良部島の女子よりも「女らしくしなさい」と言われたことのある者が多かった ($x^2=4.99$, $df=1$, $p<.05$)。男女差については、兵庫県だけで差がみられ、女子の場合、男子よりも自分の性に合った行動をとるように言われたことのある者が多かった ($x^2=22.43$, $df=1$, $p<.001$)。これに関連して表9には、どのような時に自分の性に合った行動をとるように言われているのかについて質問した結果がまとめてある。

表9 「男（女）らしくしなさい」と言われたとき

「男らしくしなさい」と言われたとき (人数)	「女らしくしなさい」と言われたとき (人数)
泣いたとき (12)	言葉づかいが悪いとき (18)
声が小さく、はっきりしないとき (4)	行儀が悪いとき (15)
だらだらしているとき (4)	あばれたとき・おてんばなとき (15)
おこられて、めそめそしているとき (3)	男のする遊びや男のようなことを したとき (13)
言い訳をしたとき (3)	けんかをしたとき (11)
こわがっているとき (2)	お手伝いをしないとき (4)
なかなか買う物が決まらないとき (2)	部屋をちらかしているとき (2)
すねているとき (1)	食事をするとき (2)
肩をすぼめて歩いているとき (1)	ズボンばかりはいているとき (1)
女とけんかしたとき (1)	下着をあまり着かえないとき (1)
妹をいじめたとき (1)	木に登ったとき (1)
女にいじめられたとき (1)	何もしないで、寝そべっているとき (1)
迷っているとき (1)	着物を着たとき (1)
夜中に便所にいけないとき (1)	服を脱ぎ捨てたとき (1)
兄とけんかをして立ち向わなかつ たとき (1)	寝て本を読んだとき (1)
テストの点が悪いとき (1)	
けんかをしたとき (1)	
にこにこしているとき (1)	
野球の練習のとき (1)	

最後の表10は、大きくなったらどんな男（女）性になりたいかについて尋ねた結果をまとめたものである。この自由記述の場合は、1人の子どもがいくつもの点にわたって回答しており、表10の各回答の人数にはかなりの重複がある。

表10 「大きくなったら、どんな男（女）性になりたいですか」に対する回答

男	(人数)	女	(人数)
強い・たくましい	(31)	やさしい	(80)
背が高い・足が長い	(14)	きれい・かわいい	(19)
やさしい人	(12)	明るい	(15)
ハンサム・かっこがいい人	(10)	みんなに好かれる	(13)
頭がいい・天才	(10)	親切な人	(11)
スポーツができる	(9)	おもいやりのある人	(9)
よく働く人	(9)	背が高い・スマート	(4)
大金持・社長	(7)	料理がうまい	(4)
おもしろい人	(5)	スポーツができる	(4)
健康な人	(5)	おもしろい人	(3)
ふつうの男性	(3)	元気な人	(3)
素直な人	(3)	差別をしない人	(2)
まじめな人	(3)	おてんばな女性	(2)
男らしい男	(2)	女らしい女性	(2)
プロ野球の選手	(2)	行儀正しい	(2)
みんなに好かれる人	(2)	楽しい人	(2)
明るい人	(2)	おしとやかな人	(2)
社会に役立つ人	(2)	ふつうの女性	(2)
えらい人	(1)	子どもから頼られる人	(1)
頼りになる人	(1)	心のきれいな人	(1)
けじめをつける人	(1)	強い人	(1)
道徳心のある人	(1)	かわいげのある人	(1)
きびしい人	(1)	声がきれい	(1)
差別をしない人	(1)	人気のある	(1)
何でもできる人	(1)	英語のしゃべれる人	(1)
いろいろ知識のある人	(1)	髪の長い人	(1)
友達の多い人	(1)	よく笑う	(1)
すぐおこらない人	(1)	尊敬される人	(1)
釣り好きな人	(1)	勉強のできる人	(1)
家族を大切にする人	(1)	天才	(1)
尊敬される人	(1)	何でもできる人	(1)
		役に立つ人	(1)
		まじめ	(1)
		お茶目	(1)
		やることをきちんとする人	(1)
		うそをつかない人	(1)

考 察

自分に期待される性役割を児童がどの程度受け入れ、評価しているのかについて、以下、地域差と男女差の点から検討を加えていく。

地域差 性役割の受容度に関して、地域差は女子においてのみ認められ（表1，表4），男子ではみられなかった。これは男子の場合，両地域とも大多数の者が男の方が得であると思っており（表7），異性になりたいと思ったことのある者もほとんどおらず（表5），ほとんどすべての者が男に生まれたことを肯定している（表1）ために地域差が認められなかったのである。

これに対して女子の場合，沖永良部島の女子は兵庫県の女子よりも，女に生まれてよかったと思っている者が少なく（表1），生まれ変わるとすれば男がいいとする者が多い（表4）。このように女子において地域差がみられたのは，沖永良部島では現在でも男尊女卑の考えが強く残っており，兵庫県の女子と比較して沖永良部島の女子は，女より男の方が得であると，より強く思っているからだと考えられる。この点は，男と女とではどちらが得かに関して（表7），兵庫県の場合，男が得であるとする者が男子に有意に多いのに対して，沖永良部島では男女の間に有意差がなく，女子でも70.8%の者が男の方が得であると回答していることによって支持されるものと思われる。

ところで，沖永良部島の女子は兵庫県の女子と比べて，「女らしくしなさい」と言われたことがあると回答した者が少ない（表8）。この理由を検討するために，表9からどのような時に「女らしくしなさい」と言われているのかをみると，「言葉づかいが悪いとき」，「行儀が悪いとき」，「あばれたとき・おてんばなとき」，「男のする遊びや男のようなことをしたとき」，「けんかをしたとき」などが目につく。つまり，「女らしくしなさい」と言われる場合は，一般的に「女らしくしなさい」と言われるのではなく，具体的に「女らしくない行動」をとった時に「女らしくしなさい」と言われているのである。このように考えると，沖永良部島の女子が兵庫県の女子よりも「女らしくしなさい」と言

われたことが少ないのは、沖永良部島の場合、伝統的な性役割が強く求められる中で、女は女らしくするものだという考えが女子に浸透しており、心の中ではそれに反発していたとしても、実際は性役割に反するような行動をとることが少なく、その結果、「女らしくしなさい」と注意されることが少ないのではないかと考えられる。

男女差 一般に男子の方が女子よりも性役割の受容の程度が高いと考えられている。このことは本調査の結果にもはっきりと現れている。たとえば、両地域とも自分の性に生まれてよかったという者は男子に有意に多い（表1）。また、男子の場合、異性になりたいと思ったことのある者はほとんどいないのに、女子の半数以上が異性になりたいと思っている（表5）。これは表7に示されているように、男女とも男の方が得であると判断していることによるものと思われる。

では、子どもたちは男の方がどのように得であり、女はなぜ損だと考えているのであろうか。これについても自由記述による回答（質問の5）を求めたが、その結果は表2、表3の内容と重複しており、本論文には表として示していない。そこで、表2、表3からこの点について考えることにする。表2をみると、男に生まれてよかった点としては、「強い」、「いろんなこと（遊び）ができる」、「おしっこがしやすい」、「あばれられる」などが挙がっている。これは男子による回答であるが、質問の5において男の方が得であると回答した女子も、ほぼ同じような理由をもって男の方が得であるとしている。ただ、女子の場合、男の方が得である理由として1番多く指摘しているのは、表2では上位にない「炊事、洗濯などをしなくてよい」であった（9名がこのように回答している）。これに対して、女の方が損である理由は、今、列举した男の方が得である理由の裏返しであり、表3の女に生まれて悪かった点のところに示されている内容とほぼ同じであった。以上のことをまとめてみると、男が得である理由は、強くて、自分の好きなように行動できる点にあり、女子が損である理由は、「おてんばができない・あばれられない」、「掃除、洗濯、お手伝い

をさせられる」,「女らしくしなければいけない」,「言葉づかいに気をつけないといけない」など(表3),何かと社会的な束縛が多く,不自由なところにあると考えられる。

このように男女に対する評価が異なる中で,性役割の受容の程度に男女差がみられたわけであるが,その一方で表10をみる限り,全体として,男子だけでなく女子も伝統的な性役割観に沿った形で,自分の将来像を確立しているようである。すなわち,男子の場合は,「強い・たくましい」,「背が高い・足が長い」,「頭がいい」,「よく働く」など,女子の場合は,「やさしい」,「きれい・かわいい」,「明るい」,「みんなに好かれる」などが,自分の将来の男性像,女性像になっているのである。

引用文献

高橋信雄 1968 男の子からみた女の子・女の子からみた男の子 児童心理, 22, 2145-2155.

本調査で用いた質問紙

<男子用>

□年

1. 男に生まれてよかったと思いますか。 (はい・いいえ)

2. 女になりたいと思ったことがありますか。 (ある・ない)

「ある」とこたえた人、それはどんなときですか。

()

3. 生まれかわるとしたら、どちらがいいですか。(男・女)

4. 男に生まれてよかった点・悪かった点は、どんな点ですか。

○よかった点

()

○悪かった点

()

5. 男と女では、どちらが^{とく}得ですか。(男・女)

○それはなぜですか

()

男と女では、どちらが^{そん}損ですか。(男・女)

○それはなぜですか

()

6. 「男らしくしなさい」といわれたことがありますか。 (ある・ない)

「ある」とこたえた人、それはどんなときですか。

()

7. 大きくなったら、どんな男性になりたいですか。

()